

FANCT

旭川工業高等専門学校 学校だより“ファンクト”
平成29年10月発行

vol.129



校内体育大会

Contents

特集1

高専体育大会 … 2~3

特集2

2017年度の就職・進学について … 4~6

特集3

インターンシップについて … 7

国際交流 … 8~10

オープンキャンパス・体験入学 … 11

校内体育大会 … 12

ANCTOPICS … 13



鈴木夕湖さん
平昌オリンピック出場内定おめでとう！！
(物質化学工学科卒業，LS北見所属)

全国高専体育大会

第52回全国高等専門学校体育大会が、8月中旬から下旬にかけて関東地区を中心に開催され、地区大会で優秀な成績を収めた本校の選手達は、ラグビーを除く13競技種目のうち、5種目に出場しました。高温多湿な条件下、実力を出し切れなかった選手達がいた一方で、見事、雪辱を果たした選手もいました。夏期休業中も練習や合宿を行って大会に臨んだ選手達それぞれに得るものがあったようです。

女子バスケットボール

(於 長野市真島総合スポーツアリーナ)

今年度の女子バスケットボール部は地区大会をストレートで勝ち進み、全国大会では昨年度準優勝の長野高専と対戦し、善戦したものの敗退という結果で幕を閉じました。私事ではありますが、主将である自分はこれにて引退となります。自分が主将を務めた2年と少しで、全国大会に2年連続出場出来るチームにまで成長できたことは、ひとえに家族や指導して下さった先生方、そして大好きな後輩たちのおかげです。よく泣いたり、時々うるさい(?)自慢の後輩たちのこれから活躍に期待しています。今までありがとうございました！ 主将 5S 内藤 郁未



野球

(於 前橋市上毛新聞敷島球場)

2年ぶりに出場した全国大会の初戦(対鶴岡高専)は、雷鳴が轟く合間を縫って行われました。試合開始の遅れ、度重なる中断を経て、高専大会チームとして初のナイターになるなど、貴重な経験をする事ができました。結果は4対5と負けてしまいましたが、3・4年生部員が今シーズンの経験を生かし、来年こそは全国大会で勝利を取ることが出来るよう頑張ってもらいたいと思います。

主将 5E 影近 巧



陸上競技

(於 松本平運動公園陸上競技場)

陸上競技は8月26日・27日に長野県松本市で行われました。会場は松本空港の滑走路に隣接していて、騒音の中での競技となりました。前日練習では雨が降ったため、大会当日も雨が降るのではないかと不安がありましたが、無事に晴れたベストコンディションの中、試合に臨むことが出来ました。我々の出場種目は男子100mと女子100m、女子走り幅跳びでしたが、結果は全て予選敗退と、こちらはベストな結果ではありませんでした。今後はさらに技術を磨いて再び全国大会に出場できるよう頑張りたいと思います。 2E 小林 正樹



剣道

(於 東京理科大学 葛飾キャンパス体育館)

顧問の先生をはじめとした多くの方々のお力添えにより、男女共に4年連続で全国大会に出場することができました。最後の年に結果で恩返しができなかったことが心残りですが、自分としては練習で培ったものを存分に発揮することができたと思います。また、稽古を通じて他高専の多くの選手と交流できたことは貴重な体験になりました。来年以降の高専大会では、団体戦でも全国大会に出場できるように後輩達に頑張ってもらいたいと思います。

5E 名畑 優作



卓球

(於 ひたちなか市 総合運動公園総合体育館)

卓球部は女子地区対抗戦、女子ダブルスで全国大会に出場しました。女子地区対抗戦は初戦から強豪校に当たり敗退し、女子ダブルスは予選リーグ敗退という結果になりました。大差で負けた試合や惜しいところまでいった試合もあって悔しい結果で終わりましたが、全国のレベルを知れて良い経験をしました。来年もまた全国大会に出場し、今回よりも良い結果を出せるように頑張りたいと思います。 4C 小島 菜緒



剣道

この夏、私は自身4度目の全国大会に出場しました。

毎年、前年度よりも勝ち上がろうという気持ちを持って試合に臨んでいるのですが、去年は1回戦敗退でした。今年の1回戦の相手は、偶然にも去年の初戦で負けた相手でした。絶対に2度も負けたくないという強い気持ちで挑んだ結果、リベンジを果たすことができ、とても嬉しかったです。しかし、喜びも束の間、続く2回戦は、今年の個人戦優勝者に面と胸を取られ、悔しい結果に終わってしまいました。来年は最後の大会になると思うので、全国での上位入賞を目指して頑張りたいと思います。 4C 田中 夢乃



北海道地区高専体育大会

第53回北海道地区国立工業高等専門学校体育大会が、7月8日・9日、競技種目*ごとに道内4高専に分かれて開催されました（陸上競技は7月2日）。夏日や真夏日となった各開催地では、全国大会の出場権をかけた熱戦が繰り広げられました。大会を通して各校選手との親睦も深まったようです。*ラグビーの地区大会は10月に旭川、全国大会は12月に神戸で開催されます。

第53回北海道地区国立工業高等専門学校体育大会成績

競技種目	(担当高専)	団体種目	順位	個人種目	順位
陸上	(苫小牧)		4位	男子100m	小林 正樹 (2E) 2位
				男子円盤投	藤原 佑亮 (2S) 2位
				女子走幅跳、100m	山口 日菜多 (2E) 優勝
剣道	(苫小牧)	男子	4位	男子個人戦	名畑 優作 (5E) 優勝
				女子個人戦	田中 夢乃 (4C) 2位
柔道	(函館)		3位	90kg級	在間 涼 (5C) 2位
卓球	(旭川)	男子	3位	女子ダブルス	小島 (4C)・西脇 (3C) ペア 優勝
		女子		女子シングルス	西脇 綾乃 (3C) 2位
ソフトテニス	(旭川)	男子	2位	女子シングルス	太田 優花 (3C) 2位
				女子ダブルス	太田 (3C)・西山 (2C) ペア 2位
硬式テニス	(釧路)	男子	3位	男子ダブルス	西村 (5S)・長谷 (4S) ペア 2位
				男子シングルス	元木 裕登 (3M) 2位
野球	(釧路)		優勝	*個人種目は2位まで記載	
バスケットボール	(釧路)	男子	4位		
バレーボール	(函館)	女子	優勝		
		男子	2位		
アーチェリー	(函館)		4位		
サッカー	(旭川)		4位		
バトミントン	(旭川)	男子	4位		
		女子	4位		



2017年度の就職・進学について

就職活動の指導を行った5年生の学級担任に聞いてみました！

- 設問1 就職内々定者数を教えてください。
- 設問2 内々定者の道内企業と道外企業の人数を教えてください。
- 設問3 第一希望企業での内々定者の人数を教えてください。
- 設問4 クラス内で一番早く就職活動を始めた時期を教えてください。
- 設問5 内々定先の企業名を5社挙げて下さい。

- 設問6 就職活動で必要と思われるスキルを教えてください。
- 設問7 4年生のインターンシップには行くべきだと思いますか？また、その理由を教えてください。
- 設問8 今後、就職を予定している4年生以下の学生に対して、就職活動に対するアドバイスやメッセージをお願いします。

機械システム工学科学級担任 宇野 直嗣



- 設問1 2017年8月31日現在で19名
- 設問2 道内：6名、道外：13名
- 設問3 14名
- 設問4 4月上旬
- 設問5 三菱ケミカルエンジニアリング株式会社、独立行政法人国立印刷局、株式会社北海道LIXIL製作所、北海道エアウォーターエンジニアリング株式会社、荏原環境プラント株式会社
- 設問6 勉強はもちろん、クラブ活動などの種々の活動に周囲と協調しながら積極的に取り組み、現状の問題点の分析とその問題点解決のための取り組みを日常から自主的に積み重ねていくことが重要であると思います。この経験を踏まないと、履歴書などの書類作成や面接の際に自己アピールすることが何もないことになり、非常に苦勞します。
- 設問7 就職・進学のいずれを希望するにしても、4年次のインターンシップに参加し、自身を見直し、将来を具体的に考える機会にすべきだと思います。特に、高専生は高校生と異なり、模擬試験など学校外で自分の実力を試す機会が少ないため、インターンシップに参加することで自分の実力を実感できると思います。ただし、企業の方に顔や名前を覚えてもらっても、その企業の内定を容易に得られるわけではありません。企業はインターンシップでの評価を採用選考の参考にしてはいますが、インターンシップでの評価と採用選考での評価を分けて考えていますから、その点は誤解しないように注意してください。
- 設問8 昨年、技術系企業では、高専本科・専攻科の出身者の評価が益々高まっており、企業に入社後、高専を経由せずに普通校から大学の工学部へ進学・卒業した人よりも高く評価される場合も珍しくないようです。この追い風に乗れるか否かは、上記の通り、勉強はもちろん、クラブ活動などの種々の活動に自主的かつ積極的に取り組めるかが重要です。4年生になってから始めるのではなく、1年生のうちから実力と経験を積み重ねて下さい。健闘を祈っています。

電気情報工学科学級担任 笹岡 久行



- 設問1 2017年7月現在で17名
- 設問2 道内：2名、道外：15名
- 設問3 13名
- 設問4 4月上旬
- 設問5 日本放送協会(NHK)、北海道電力株式会社、株式会社NTT-ME、東芝メディカルシステムズ株式会社、ANAベースメンテナンステクノス株式会社
- 設問6 積極性、コミュニケーション力、謙虚さ
- 設問7 就職を希望しているのであれば、4年生のインターンシップには行くべきだと考えています。主に次にあげる3つの理由があります。
 - 一つ目は、何より学校の外で就業体験ができ、自分の甘さを自覚できることです。
 - 二つ目は、応募の際、これまでの自分の学生生活を振り返ることができると同時に、自分が就職を希望する業界・分野を再認識できることです。
 - 三つ目は、インターンシップへの参加状況を採用選考の際、一つの参考の情報にしている企業も中にはあることです。
- 設問8 学校での勉強などと一緒に、自ら考え、積極的に活動してください。第一志望の就職先に就職できますよう応援しています。

システム制御情報工学科学級担任 堀川 紀孝



- 設問1 17名
- 設問2 道内：6名
道外：11名（道内事業所勤務予定2名）
- 設問3 13名
- 設問4 3月末
- 設問5 株式会社日立ビルシステム、株式会社SUBARU、北海道住電精密株式会社、M-SOLUTIONS株式会社、サイバートラスト株式会社
- 設問6 自分から行動すること：会社や業界を調べる、書類のアドバイスや面接練習を教員に依頼する、など。
自分を説明できること：自分の考えや、これまでの経緯、経験などを説明できる。
どれも仕事でも必要なスキルです。
- 設問7 行くべきだと思います。希望業種が決まっていれば、実際の仕事や社風に触れることができる貴重な機会であり、それ以外でも会社で仕事が進む様子を知ったり、他の地域での生活を体験できるなど、自分の将来を“具体的に”考える良い機会となります。
- 設問8 将来やりたいことは人によって様々で、むしろ具体的に決まっていない人のほうが多いかもしれません。まず仕事で扱うもの（業種）や仕事への関わり方（職種）を知るところからはじめてはどうでしょう。いろいろな情報やアドバイスをもとに決めるのは自分です。待ちではなく、攻めの気持ちでのぞみましょう。

物質化学工学科学級担任 松浦 裕志



- 設問1 7名
- 設問2 道内：4名、道外：3名
- 設問3 5名
- 設問4 春休み中（3月下旬）
- 設問5 北海道三井化学株式会社、カルビーポテト株式会社、株式会社大塚製薬工場、出光興産株式会社、ニプロ株式会社
- 設問6 勉強（こつこつ物事を継続する力）も大事ですが、いろいろな年齢の方（特に年齢の上の方）としっかりとお話ができることが重要だと思われます。
- 設問7 ぜひ行くべきだと思います。高専生は外の世界（社会）に触れる機会が大学生等よりは少なく、限られた情報のみで進路選択している場合も少なくありません。自分の目でいろいろと見て感じ、自分で考えることが重要です。
- 設問8 就職に限らず進学希望の学生も含めて、残りの学校生活を大切に過ごしてください。よく就職・進学両方とも、面接試験では学校生活で頑張ったことを聞かれることがあります。何となく学校生活を過ごしていると何かに打ち込むことが少なく、答えに困ってしまうようです。面接で聞かれるからではありませんが、勉強でも部活動でも何でもいいですので、何か一つのことを熱中して取り組んでみるのはいかがでしょうか。

5年生の内定者に聞いてみました！

- 設問1** 内々定を得た企業は？
設問2 就職試験を受けた企業数は？
設問3 内々定を得た企業の志望理由は？
設問4 就職活動に関して、どのような準備をいつごろ開始しましたか？
設問5 就職活動で最も重要だと思った事は何ですか？
設問6 後輩へのアドバイスをお願いします。



機械システム工学科5年 大高 照平



- 設問1** 三菱ケミカルエンジニアリング株式会社
設問2 1社
設問3 世の中に残る大きな仕事をしたいという気持ちからプラントエンジニアを目指しました。プラントエンジニアリングの会社の中でも内々定をいただいた会社は、設計から保守までプラント全般に携われることと事業の幅が広いことが志望の理由です。
設問4 4年生の春休み頃から、会社説明会に参加したり、学校に来ている求人を全て見たりしていました。
設問5 スピードです。受ける企業の決定、履歴書の作成・提出、面接の練習、筆記試験対策。これらを早い時期に済ませないと就職の幅が狭くなってしまいうため、早い準備が最も重要だと思います。
設問6 進学するか就職するか迷っている人もたくさんいると思います。私も4年生の2月終わりまでずっと迷っていました。しかし、進路が決まるのは5年生の前半と早いので、どちらにするか4年生の夏休み頃までには決め、学生生活を楽しみましょう。

電気情報工学科5年 千財 拓真



- 設問1** ANAベースメンテナンステクニクス株式会社
設問2 1社
設問3 12月に学校で行われた合同企業説明会においてANAのお話を聞いた際に航空機整備の責任の重さとそれに対するやりがいの大きさを感じたから。さらにクラスメイトにインターンシップに参加した人がいたのでその人からいろいろな魅力を教えてもらったことが理由です。
設問4 エントリーシートが春休み前に配られたので春休みからエントリーシートの内容を考えるのと、SPIの問題集を買って勉強をやりました。あと企業で就職前に取得を推奨している資格も取りました。
設問5 面接だと思います。短い時間の中でいかに自分をアピールできるかが重要なので、たくさん練習して会話能力と語彙力を身に付ける必要があると思います。
設問6 就職にはあまり成績は関係ないと思われがちですが、取っおいて損はないので普段の勉強も頑張ってください。

システム制御情報工学科5年 長谷川 鉄馬



- 設問1** ウェルネット株式会社
設問2 1社
設問3 主な仕事内容であるプログラミングが好きだったことです。また、インターンシップの時に、広々としたオフィスや社員の人柄、良心的な勤務時間などから、アットホームで働きやすい雰囲気を感じました。社員のやりたいことを尊重する社風からも、気持ちにゆとりを持って働くことが出来ると感じました。
設問4 自主的に行い始めたのは4年の2月頃から春休みにかけてです。単独説明会や様々な企業の合同説明会に参加したり、学校を通して会社へインターンシップをお願いしたりもしました。
設問5 面接では会社のことをどう思っているかよりも(もちろん志望動機は聞かれますが…)、自分が今までどのような学生生活を送ってきたか、また、それを通して養ってきた物事の考え方について重点的に聞かれる傾向があると思います。勉強だけでなく部活やアルバイトをしたり、友達と遊んだりしておく、アピール出来ることが増えてとても役立つでしょう。
設問6 就職活動は自己分析ができて初めて方向性を決めることができます。早いうちから自分のやりたいこと、性格、長所や短所などを自分で理解することから始めましょう。気質的に向いていない仕事は、たとえ就くことが出来ても辛いだけです。自分の特徴を生かすことの出来るような職場を見つけ、そこに就職することが、就職活動のゴールです！そしてその後ちゃんと卒業しましょう。

物質化学工学科5年 三浦 朱里



- 設問1** 株式会社大塚製薬工場より内々定をいただきました。この会社は大塚グループの会社で、輸液やオロナイン軟膏等の医薬品を製造しており、輸液に関しては国内でトップシェアとなっています。
設問2 1社
設問3 私が就活で一番こだわっていたことは、勤務地でした。北海道に残れる求人を探していたところ、担任の先生から釧路に工場のある大塚製薬工場を勧められたので志望しました。もちろん、他にも安定性のある企業だとか医薬品製造に関わることで社会に貢献したいとか理由はたくさんあったのですが、一番の理由は北海道に残れるからです。
設問4 3月から、会社説明会等へ参加し、様々な企業の情報を集めました。3月下旬には大塚製薬工場の見学があり、この見学会へ向けてプレゼン発表やグループワークの練習を1~2週間かけてしっかり行いました。また、SPI・面接試験についても同様に時間をかけて取り組みました。わたしは陰キャを極めており、人前で話すことが特に苦手だったので、いろいろな人と練習をすることで試験への不安を取り除こうと努力しました。その甲斐あって、1社目で内定をいただくことができました。
設問5 一番大事なことは積極性だと思いました。例えば、わたしは会社説明会に積極的に参加するようにしたのですが、その結果、たくさんの企業を知ることができました。そのため自分と合いそうな会社選びをスムーズにすることができました。また、大学生が多く参加する会社説明会では、大学生の醸し出す本気の雰囲気刺激を受け、就活に活かすことができました。
設問6 私は3年のときに学科最下位を獲得して留年してしまい、成績もとても良いとは言えないのですが、なんとか1社目で内定をいただくことができました。ですから、留年したからとか、成績が良くないからとかは就活に多分関係ないのだと思います。なので、就活の際には学業以外のところで秀を目指して頑張ってください。

5年生の進学決定者に聞いてみました！

- 設問1** 合格した進学先は？
設問2 受験した進学先の数は？
設問3 合格した進学先の志望理由は？
設問4 進学に向けて、どのような準備をいつごろ開始しましたか？
設問5 進学する上で最も重要だと思ったことは何ですか？
設問6 後輩へのアドバイスをお願いします。



機械システム工学科5年 上杉 拓也



- 設問1** 豊橋技術科学大学 工学部 機械工学課程
設問2 3校に願書を出したが、試験を受けたのは1校
設問3 ロボット、メカトロニクスの研究ができるということと、興味のある農工連携についての研究組織があり、農工連携に通ずる教授もいるというところに魅力を感じたからです。進路の実績を見ても、大手企業に就職している先輩が多くいるのも良いところだと思いました。また、高専からの編入者が多いということで、自らを工学に対する意識の高い人たちの中に身を置き切磋琢磨することで、自分のスキル、工学の知識を磨くことができると思い志望しました。
設問4 大学を調べ始めたのが3年生の冬で、4年生から広く浅く勉強をし始め、4年生の冬休みに第一志望校を決めました。志望校を決めてからは、その大学に特化した勉強をしました。
設問5 準備と情報ですね。具体的に言うと、基礎的な問題を解く力と問題傾向を知ること。結局どちらも、身に付けるのに時間がかかるので、どれだけ早く進路について意識し始めるかだと思います。
設問6 就職、進学に限らず、まず自分は何をしたいのか、何が好きなのか考えてみてください。設計をしたい、ロケットを作りたい、海外で仕事がしたい、何でもいいです。そこから進路を考えれば、おのずと、今、何をすべきか、どういう進路にすればよいのかわかってくると思います。後悔しないように頑張ってください。

電気情報工学科5年 蛭澤 皓斗



- 設問1** 東京農工大学 工学部 電気電子工学科
電子情報通信工学コース
設問2 1校
設問3 希望する研究室があったことが1番の理由です。それ以外にも東京に行けば遊ぶところがたくさんあって学校以外にも楽しいことがあると思ったからです。
設問4 受験勉強を本格的に始めたのは春休みからでした。春休みに学校見学に行ったことで、やる気になったので良かったと思います。あと、数学特講はとっておいた方がいいです。
設問5 私は推薦入試だったので、面接と口頭試問だけでした。当日の口頭試問の出来は良くなかったのですが、合格できたのは学科席次のおかげだと思っています。面接で自分の熱意を伝えることも大事だと思いますが、学科席次は重要だと思います。
設問6 学校の勉強と受験勉強を両立することが大変だと思いますが、その配分を決めるためには志望校を早く決めることが大事だと思います。受験する学校によって試験の内容や推薦入試に必要な席次は異なるので、闇雲に勉強するのではなく優先順位を決めていく必要があると思います。

システム制御情報工学科5年 高木 翼



- 設問1** 大阪大学 工学部 応用自然科学科 応用物理学科 (他2校)
設問2 5校
設問3 高専での授業や行事を通して、人のために技術を活かすことの難しさを知りました。大学でその難しさに立ち向かいたいと思ったことと、物理が好きだったことから、実学に力を入れている大阪大学で応用物理を専攻したいと考えようになりました。4年生のインターンシップで大阪大学の学生の話聞く機会があったのも大きなきっかけです。
設問4 受験科目のうち数学と物理については、進学を意識して勉強を始めたのが4年の冬頃だったと思います。それ以前にも物理の本を何冊か読んでいました。英語も好きだったので、1年の頃から簡単な勉強をコツコツやっていたと思います。
設問5 高専からは大学3年への編入になるので、大学でどのような勉強をしたいかきっちりと決めてから受験をしなければなりません。受験勉強については、やるしかないと言えませんが、この点については5年間かけて答えを出すべき重要な問題だと思います。
設問6 どの大学を受けようと専門分野を変えようと自由ですが、それが仇となって、なんとなく進学をしてしまう人も多いかもしれません。しかし、その中でも自分のやりたいことや将来の目標を決めることができたなら、それがモチベーションとなって結果もついてくると思います。

物質化学工学科5年 佐々木 慈生



- 設問1** 宇都宮大学 工学部 応用化学科 (推薦選抜)
信州大学 工学部 物質化学科 (一般選抜)
設問2 2校
設問3 将来これで食べていきたいと思える分野の研究があるというのが一番の決め手でした。
設問4 具体的な進路先が固まった4年後期から、専門科目の復習とTOEICのスコアを伸ばすことを目的に勉強を始めました。それまでは、推薦をとれる最低基準であるクラスの半分以上の席次をキープしながらなんとなく勉強に取り組んでいました。私の場合は、筆記試験がなく、面接と専門分野と英語の口頭試問による試験だけだったため、広く浅く勉強していました。また、旭川高専からその大学に進学した先輩から受験の雰囲気や大学生活のことを伺う機会があったことで、当日の対策はもちろん、モチベーションの向上にもつながりました。
設問5 日頃の積み重ねだと強く感じました。4年前期まで課外活動を言い訳になんとか勉強をしてきただけに、いざ復習をしてみるとかなり忘れてしまっているところが多かったため、かなり焦りました。
設問6 自分を信じて、後悔のないよう、頑張ってください！

インターンシップについて



インターンシップに参加した学生に聞いてみました！

- 設問1 インターンシップ先は？
- 設問2 インターンシップ先の志望理由は？
- 設問3 インターンシップを経験し、最も重要だと思ったことは何ですか？
- 設問4 インターンシップでの経験を、今後の勉学や進路選択に、どのように活かしますか？
- 設問5 先輩へのアドバイスをお願いします。

機械システム工学科4年 高野 大輝



- 設問1 いすゞエンジニアリング株式会社
- 設問2 私は幼いころからトラックが好きだったので、トラックがどのように設計されているのか、設計をする際に大切なことは何かを知り、設計者になるために必要な知識を増やしたいと思い志望しました。
- 設問3 実際に職場を見学すると、様々な部署の人と協力することが多いことや、設計した物を分かりやすく説明する力が必要なことがわかり、コミュニケーション能力がとても重要だと思いました。
- 設問4 私は今回のインターンシップを経験して、設計はとても大変なことや苦勞が多いことがわかりました。しかし、自分で設計したものが形になる喜びや楽しさがあることを知り、設計者になりたいと強く思ったので、専門科目で設計の基礎をしっかりと勉強して、設計者の道に進みたいと思いました。
- 設問5 インターンシップでは、実際の職場に触れることができ、働いている方のやりがいや苦惱を直接聞くことや、業務を見学するなどの貴重な体験がたくさんできます。とても良い経験になると思うので就職を考えている人はもちろん、進学を考えている人も参加してみてください。

電気情報工学科4年 大久保 大誠



- 設問1 株式会社明電エンジニアリング
- 設問2 この会社への企業実習を志望した理由は「電気設備をはじめとしたすべてのメンテナンスを行う」という事業に興味を持ったからです。自分は電気設備等が好きなこともあり、この会社で実習すればよい経験ができると思いました。
- 設問3 研修では講義、配電盤の操作や水処理機関のデモンストレーションの操作、工場見学などを行いました。その他に、会社の方と交流をたくさん持つことができ、会社の雰囲気を知ることができた点も重要だと思いました。
- 設問4 企業実習では、自分の進路の参考になるような経験がたくさんできたので参加してよかったと思えました。また、実習中に学んだことが自分に適しているかを考えながら今後の進路選択に活かしていきたいです。
- 設問5 企業実習は自分の進路選択の参考になるので行った方がいいです！

システム制御情報工学科4年 石井 遼



- 設問1 M-SOLUTIONS株式会社
- 設問2 将来はソフトウェア関係の仕事がいいかと漠然とした考えを持っており、いくつか希望したうちの1社でした。
旭川に支所を置いているという点に興味を持ち、志望しました。
- 設問3 他人と討論すること、その中で自分の考えを持ち、それを述べることの重要性を学びました。
また、会社と学校の違いを感じることができました。
- 設問4 就職か進学かまだ悩んでいますが、自分ができることが少しわかったので、自分ができること、したいことを仕事にできるような進路を選択していきたいです。
- 設問5 高専の5年という時間は思ったより短く、今となっては全然足りないと感じています。
そのため学生のうちにできること、やりたいことはどんどんやってほしいです。

物質化学工学科4年 尾形 佳亮



- 設問1 サントリーホールディングス株式会社
- 設問2 数ある工業分野の企業の中で、自分に一番身近で、多くの先輩方が就職している食品関係の企業に行ってみたいと思えました。食品関係の企業について調べていた時にサントリーの「やってみなはれ」の精神に興味をもち、その精神が工場ではどのような形で活かされているのを見てみたいと思い志望しました。
- 設問3 他分野への興味だと思います。サントリーの工場では化学科出身の人が生産ラインの制御をしていたりと高専で得た知識だけでは仕事ができませんでした。就職してからも勉強が必要なので、他分野への興味がないとその勉強も続かないと思えました。
- 設問4 自分は今回のインターンシップで工場での仕事に魅力を感じることができず、そこでは働きたくないと思えました。そのため、この思いを編入学試験の勉強のモチベーションにつなげたいと思います。
- 設問5 進学か就職かで迷っているならば、企業のインターンシップに行ってみるべきだと思います。そこで実際に高専OBの方々の仕事を見たり、話を聞いたりして最終決定するのが良いと思います。

水原ハイテク高等学校（大韓民国）との交流事業

この交流事業は、本校と大韓民国の水原ハイテク高等学校間で締結した研究及び教育に関する分野の交流促進を目的とした学術交流協定に基づき行っているもので、今年度で7回目となります。この事業は、水原ハイテク高等学校の生徒を本校へ受け入れる受入プログラムと、本校の1～3年生の低学年を対象とし、本校の学生を水原ハイテク高等学校へ派遣する派遣プログラムで構成されます。

受入プログラムは、7月12日(水)～18日(火)の期間、水原ハイテク高等学校の2年生8名と引率教員3名による訪問団の受入を実施しました。

派遣プログラムは、8月23日(水)～29日(火)の期間、本校の1年生2名、3年生3名と引率教職員3名による訪問団の派遣を実施しました。本紙では、本校からの派遣プログラムを中心に取り上げます。

派遣プログラム日程

8月23日(水)	出発日(旭川⇒羽田⇒金浦⇒水原)、歓迎会
24日(木)	対面式、ソウル観光(仁寺洞・景福宮・南山タワー)
25日(金)	授業体験(専門授業・体育)、水原ハイテク高等学校生徒向け発表会
26日(土)	EVERLAND(テーマパーク)観光
27日(日)	水原華城観光、水原市内自由観光
28日(月)	各学科の特別授業体験、送迎会
29日(火)	お見送り、帰国日(水原⇒金浦⇒羽田⇒旭川)

* 出発前に水原ハイテク高等学校生徒向け発表会の練習を3回実施

訪問団メンバーの感想等

板垣 佑 (機械システム工学科3年)

私は、今回韓国の水原ハイテク高校への短期留学に行き貴重な体験をたくさんすることができました。7日間の滞在期間は全て水原ハイテク高校の寮に泊まりましたが、私は通生なので寮の生活すらも初めての経験でした。水原ハイテク高校の寮は、部屋にトイレやシャワーがついており、洗面所は二つありました。おかげで不自由な生活を送ることができました。

水原ハイテク高校を訪れて一番に驚いたのは、チューターの生徒たちが日本語を流暢に話していたことです。さらにチューターの生徒だけでなく他の生徒達も日本語を使って声をかけてくれてとても驚きました。チューターの生徒や、日本語で話しかけてくれた生徒とはLINEやFacebookで繋がっていて、今でもメッセージのやりとりをしています。今回の短期留学は1週間と短い期間ではありましたがとても良い経験ができ、この経験を今後に生かしていきたいと思います。

坂井 功規 (機械システム工学科3年)

僕が韓国留学を決めた理由は二つありました。一つ目は、去年、韓国から来た生徒のチューターを行って、国際交流の楽しさを知ったからです。韓国の友達もできて、とても充実した1週間でした。その友達とも会いたいと思い、韓国に行きました。二つ目は、韓国語を学びたかったからです。僕は昔から韓国語に興味があり、現地の人と話してみたいと思ったからです。

韓国では色々なことを楽しみました。遊園地に行ったり、韓国の繁華街に行っておいしい料理を食べたり、寮でみんなで遊んだり楽しいことばかりでした。特に驚いたことは、寮にクーラーとトイレとシャワーが付いていることでした。

韓国の生徒はみんなとても優しく、フレンドリーでした。そのおかげで韓国留学が一生の思い出となりました。これをきっかけに国際留学を積極的に行っていきたいと思いました。

星野 裕一郎 (機械システム工学科1年)

「行きたくないなー」で始まった韓国研修。知らない言葉・先生、周りは先輩ばかり。知ってる人いないし、怒られるし、やってらんねーという思いだけが心にあった。

しかし、実際に研修を終えた今では「来年も行きたい!!」という思いでいっぱい。研修は想像の遥か上を行き、楽し過ぎた。

水原市・空港で谷口先生に怒られる。先輩方は若干口が悪い。けど、それらをかき消すくらい色々な楽しいことが盛りだくさん!! たくさんの現地での友達!! 水原の人たちはとてもフレンドリーでビックリした。

正直、ミサイルが発射された時は飛行機が欠航にならないかなーって思う程だった。

結果めちゃくちゃ面白い、としか言いようがない。もし来年行く人は、宿題は終わらせてからの方がいいよ。

佐々木 蓮 (物質化学工学科3年)

水原ハイテク高校に1週間行ってきました。行こうと思ったきっかけは、友達から一緒に行かないかと言われ、ホームステイや短期留学に丁度興味があったので行ってみることにしましたが、誘ってきた本人は諸事情により行けなくなってしまいました。少し不安はありましたが、いざ行ってみるととても楽しくあつという間の1週間でした。ソウルを市内観光したり遊園地に行ったり、水原市内を観光したり、全てが刺激的でした。同校の生徒達も優しく接してくれて、すぐに仲良くなることができました。みんなでボウリングに行ったり、カラオケに行ったりもしました。彼らはとても日本語が上手でカラオケでは尾崎豊を歌ったりしていました。最高の1週間でした。

石橋 凛 (物質化学工学科1年)

今回、水原ハイテク高校交流事業に参加して、1週間でこれほど自分が成長できたと思ったのは初めてでした。初日は18:30ごろに金浦空港に到着し、そこで韓国のチューターや先生方にお会いしました。バスで、高校に移動するまで、たくさんチューターと話しました。あなたの英語、前に日本で会った時よりも上手になったねと言われたときは、とてもやりがいを感じ、嬉しかったです。3日目のプレゼンを発表した日は、現地の1年生が、とても楽しそうに聞いてくれたので、何度も練習し添削してという作業をしておいて良かったと心から思いました。帰国する日、チューターが手紙やプレゼントをサプライズでくれました。とても感動しました。この1週間、たくさんの貴重な体験をさせてもらいました。協力してくれた方々に感謝しています。

山田 実沙紀 (学生課教務係)

私自身、初めての海外であり、言語や手続といった不安に加え、国際情勢の悪化など、様々な不安を抱えての出発となりました。しかし、水原ハイテク高校の皆様が温かく迎えてくださったことや、楽しそうに交流を深めていく学生たちの姿のおかげで、いつのまにか不安はなくなっていました。充実した7日間を過ごし、最終日には両校の生徒・学生が別れを惜しむ姿も見受けられ、大変有意義な交流になったのではないかと感じました。そして何より全員無事に帰国できて本当に良かったです。

最後になりましたが、実施に当たりご協力いただきました、保護者の皆様、教職員の皆様及び水原ハイテク高校の教職員・生徒の皆様へ、心より御礼申し上げます。

以後 直樹 (システム制御情報工学科准教授)

初めての韓国訪問でしたが、水原ハイテク高等学校のチューターと教員の方々には、大変良くして頂き感謝申し上げます。帰国日に日本に向けてミサイルが発射されましたが、特に大きな問題も無く帰国でき良かったと思います。韓国から日本への訪問希望者は、毎年かなり多く、日本に来るためにはかなりの倍率を突破する必要があるとのこと。日本から韓国への派遣時には、現状それほど多くの希望者がいません。両校の良好な関係を続けていくために、派遣希望の学生が増加することを願っております。



韓国と日本の絆



平成29年度 フランス人インターンシップ学生

フランス・リールA技術短期大学と国立高等専門学校機構との学術交流に関する協定に基づき、本年は本校で、2名のフランス人インターンシップ学生を受け入れました。Kevin Forgetさんは、電気情報工学科 宜保講師の研究室、Guillaume Lollierさんは、システム制御情報工学科 以後准教授の研究室で、4月から6月までの3か月間に渡り研究を行いました。

そして、6月21日(水)に研究成果発表会を実施しました。Kevin Forgetさんからは、"Programming a software that can discriminate human from object thanks to movements"と題し、コンピュータビジョンの技術を用いた人検出に関する研究についての発表がされました。また、Guillaume Lollierさんからは、"Web application using a Raspberry Pi"と題し、小さなコンピュータのRaspberry Piと離れた場所にあるセンサを無線通信で接続し、センサからの情報を収集・保管し、Webブラウザ上で確認できるシステムに関する研究についての発表が行われました。

この取り組みは、次年度以降も継続される予定です。また、本校の学生をフランス・リールA技術短期大学へのインターンシップ学生として、派遣することも予定しています。

本紙では、本インターンシップにおけるGuillaume Lollierさんからの感想を取り上げます。



Guillaume Lollierさんの感想

Thank you for your heartwarming welcome, it was a pleasure to share these months with you! If you have the opportunity to go on an international internship or to study in a different country don't hesitate a second even if it frighten you! Because you will meet a lot of awesome and sympathetic people like I met here! Furthermore, it will make you more open minded!

ブルーミントン・ノーマル両市との交換留学

旭川市の姉妹都市であるアメリカ中西部イリノイ州ブルーミントン・ノーマル両市において、交換留学制度があります。この制度を利用して、本校のシステム制御情報工学科3年岡崎汰生さんとNicholas Benjamin Modine (通称:ニック)さんとの交換留学が実施されました。

ニックさんは、電気情報工学科で約1年間を過ごしました。交換留学中、語学研修のため旭川市に滞在していたブルーミントン・ノーマル両市の中学生6名を含む訪問団に対して、本校での学校生活等のプレゼンテーションを実施する機会もありました。

本紙では、本校からブルーミントン・ノーマル両市へ約1年間の交換留学を体験した岡崎さんからの交換留学時の感想等を取り上げます。



岡崎さんの感想

留学しようと思ったきっかけは、大まかに二つありまして、一つ目は高専とは全く関係ありませんが小さい頃から「鳥の様に飛びたい」と思っていたのでパイロットになるための英語力を磨こうと思ったからです。パイロットになるだけなら特に難しい英語を使えなくてもなることはできますが、やはりなった時に他のパイロットと世間話くらいできないとどうしようもないので、ある程度の英語力を若いうちに身につけておこうと思ったからです。二つ目は音楽や映画からのアメリカ文化を肌で感じてみたいという理由でした。

現地で学んだ事は何かと問われればはっきりとは答えられませんが、やはり一番はある程度のレベルの英語力といえますか世間話英語くらいを身につけた事です。最初の頃は満足にホットドッグすら頼めないような怪しい英語だったのですが、今もし同じ店に行ったらスラスラとホットドッグとコーラを注文し店員と世間話をできるくらいには成長しました。

最後に、僕は旅行が好きなので、滞在中にアメリカ中といったらオーバーですがかなり色々な州の街に行く事ができたので、旅行が好きなお人にとっては留学は良い手段なのではないでしょうか。



7月2日
(日)

オープンキャンパスが開催されました。



昨年から行われているこの催しは

「高専ってどんなところ?」、
「どんな勉強をするの?」

など、旭川高専がどのような学校か地域の方々に
知っていただくためのものです。

各学科の研究室や学内施設などを巡る

「高専探検ツアー」

や在校生の日常や勉強、研究などについて紹介する

「高専ガール&高専ボーイのキャンパスライフ紹介」

留学生が母国やその文化などを紹介する

「世界の国からこんにちは」

などのイベントが行われ、地域から多くの方が来校
されました。



7月29日
30日(日)

体験入学が開催されました。



体験学習

これは、本校の各専門学科の学習内
容の一部を実際に体験することで、多
くの中学生に本校に興味を持ってもら
うことを目的としています。当日は近
郊のみならず、札幌、北見、帯広から
の送迎バスを利用して多くの中学生が
参加しました。

体験学習の補助や学校の紹介などを
行った本校の学生にとっても、良い経
験となりました。



キャンパスライフ紹介



学科紹介



校内体育大会

5月18日(木)・19日(金)の2日間にわたり、校内体育大会が開催されました。

2日間共に晴れ渡り、バレーボール、サッカー、ソフトボール、ウォークラリー、学科対抗ドッジボール、バスケットボール、バドミントン、駅伝の競技が行われました。

総合優勝は例年とは異なり、高学年を抑えたシステム制御情報工学科3年となりました。



女子学生向け就職活動におけるメイクアップ講座を実施しました。



4月12日（水）に、女子学生向け就職活動におけるメイクアップ講座を開催しました。

この行事は、女子学生が採用試験を受験する際の身だしなみやメイクアップの基本等を講演及び実技により学習させるとともに意識させ、学生の資質を向上させることを目的として、昨年に引き続き開催しました。

当日は、8名の女子学生が参加し、講師の講演を熱心に聞くとともに、持参した化粧品を使って積極的に実技に取り組みました。

授業参観を開催しました。

5月2日（火）に、「保護者による授業参観」を開催しました。

3～6時限目に開講している授業を対象として、「英語Ⅰ」「体育Ⅱ」などの一般科目、「電気情報基礎演習」「基礎電子回路Ⅱ」などの専門科目の授業を公開しました。

保護者からは、「とても雰囲気がよく、楽しそうに勉強しており良かった」「学生がお互いに教えあっている様子を見て安心しました」などの声が寄せられ、291名もの保護者に本校の授業の様子を参観していただくことができました。



留学生歓迎会を開催しました。



5月12日（金）に、留学生歓迎会を開催しました。

今年度編入学した2名の留学生（マレーシアからの政府派遣留学生、インドネシアからの国費留学生）を迎え、関係教職員、学生会役員、寮生会役員、チューター学生及び在籍留学生が参加しました。

新入留学生は、まだ慣れない環境に不安な気持ちもあるようですが、この機会を通して在籍留学生やチューター学生、そして教職員との会話も弾むようになり、打ち解けていく様子が見受けられました。

第2学年宿泊研修を実施しました。

6月22日（木）～23日（金）に、第2学年宿泊研修を実施しました。

1日目は、道新総合印刷工場とアサヒビール北海道工場を見学し、定山溪ビューホテルに宿泊しました。2日目はルスツリゾートで過ごし、事故や怪我もなく、すべての行程を無事に終えることができました。

この研修を通じて、学生同士や教員との結びつきを深め、楽しく爽やかな学生生活の思い出をつくることができました。



行事予定

平成29年度

11～3月

11月	9日(木)	就職適性検査(本科4年・専攻科1年)
	11日(土)	平成30年度専攻科後期学力・社会人特別選抜試験
	20日(月)～27日(月)	後期中間試験(本科)
	30日(木)	就職実践模試(本科4年・専攻科1年)
12月	3日(日)	ロボコン全国大会(東京)
	7日(木)	就職適性検査説明会(本科4年・専攻科1年)、第4回TOEIC IPテスト
	14日(木)	学生立会演説会(本科)
	15日(金)	学生会役員選挙(本科)
	16日(土)	学内セミナー(本科4年・専攻科1年)
	21日(木)～1月10日(水)	冬期休業
1月	11日(木)	授業開始、学習到達度試験(本科3年)、一般選択科目説明会(本科3・4年)
	18日(木)	第5回TOEIC IPテスト
	20日(土)	平成30年度本科推薦選抜試験
	23日(火)	就職模擬面接(本科4年・専攻科1年)
	25日(木)	学生総会(本科)
2月	2日(金)	卒業研究発表会(本科5年)
	8日(木)～15日(木)	学年末試験(本科)
	9日(金)	特別研究発表会(専攻科2年)
	13日(火)～3月31日(土)	学年末休業(専攻科)
	18日(日)	平成30年度本科学力選抜試験
3月	1日(木)～31日(土)	学年末休業(本科)
	16日(金)	卒業証書授与式(本科) 修了証書・学位記授与式・JABEE認定教育プログラム修了証書授与式(専攻科) 卒業生・修了生壮行会[本校第1体育館]

FANCT vol.129

「FANCT」…旭川高専を表す「ANCT」に「F」をつけて「Fun」(楽しい、愉快的)の音を付けました。旭川高専の楽しい情報を伝えること、また、読むのが楽しみな学校だよりになるよう名付けました。



独立行政法人国立高等専門学校機構

旭川工業高等専門学校

〒071-8142 北海道旭川市春光台2条2丁目1番6号

TEL 0166-55-8000 (代表)

FAX 0166-55-8082

<http://www.asahikawa-nct.ac.jp>

学校だよりに掲載されている記事・写真などは、学校だよりへの掲載目的以外の利用及び外部への提供は一切行いません。また、個人情報に関するお問い合わせは、上記担当までご連絡ください。掲載の記事・写真・イラストなどのコピー・転写等の二次利用は固くお断りしております。



編集後記

例年、10月発行のFANCTでは、夏休み期間中に実施されるニュージーランド・イースタン工科大学語学研修について掲載していましたが、今年度は応募者が十分集まらず、研修が実施されませんでした。そのため、本FANCT Vol.129では、これまで以上に進路に関する情報を充実させた内容にするために、本科5年生の就職・進学情報だけでなく、進路に大きく関係する本科4年生のインターンシップ情報についても掲載し、例年よりもページ数も増やしました。次年度以降に進路を決定する学生と保護者の皆さんにとって、本誌が有益な情報源の一つになれば幸いです。

末筆になりましたが、本FANCT Vol.129の発行に際し、ご協力頂いた学生と教職員の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

学校広報WG 宇野 直嗣